

平成25年度 病害虫発生予察情報

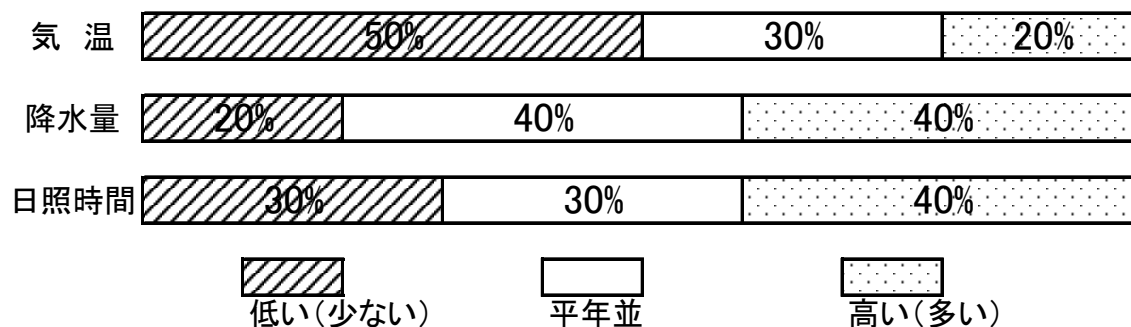
発生予報 第1号（4月）

平成25年 4月10日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	やや少ない
		赤かび病	平年並
		うどんこ病	平年並
果樹	イネ	イネスズウムシ	やや少ない
	ナシ	黒斑病	やや少ない
野菜	タマネギ	ハダニ類	やや少ない
		ボトリチス属菌による葉枯れ	少ない
		白色疫病	平年並～やや多い
	イチゴ	べと病	平年並
		腐敗病・軟腐病	やや少ない
		灰色かび病	平年並～やや多い
		アブラムシ類	やや多い
		ハダニ類	平年並

中国地方1か月予報(4月6日～5月5日・広島地方気象台4月5日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない（過去10年のうち、3月末の発生は平成20年のみ）。
- ②ムギの生育は平年並み～やや早い。
- ③4月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①ムギの生育は平年並み～やや早い。
- ②4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない（平成4年以降、3月末の発生は未確認）。また、近年の発生量は少ない。
- ②ムギの生育は平年並み～やや早い。
- ③4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

2) イネ

(1) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①前年の新成虫発生量はやや少なく（平年比53%）、本年の越冬量は平年に比べてやや少ないと考えられる。
- ②4月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内二十世紀栽培地帯
発生時期 早い
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①前年の発生量は平年に比べてやや少ない。
- ②ナシの生育進度は平年と比べて早い。
- ③4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①誘殺バンドによる越冬調査ではカンザワハダニの発生園率は0%（平年35.2%）、平均越冬虫数は0.0頭/バンド（平年4.8頭/バンド）と平年に比べて少ない。
- ②4月の気象は本種の発生をやや助長的である。



バンドトラップにおけるハダニ類越冬虫の捕獲数の推移

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 少ない

予報の根拠

① 3月下旬の巡回調査で発生は確認されていない（平年発病株率0.02%）。

② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 白色疫病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生圃場率が26.7%（平年35.2%）、発病株率は1.4%（平年1.2%）とほぼ平年並みである。

② 4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 3月下旬の越年罹病株の発生量は、発生圃場率が10.0%（平年22.5%）、1万本当たりの発病株数は3.4本（平年3.9本）と平年並みである。

② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) 腐敗病・軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生圃場率が3.3%（平年24.7%）、発病株率は0.03%（平年0.6%）とやや少ない。

② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イチゴ

(1) 灰色かび病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発病葉率が0.2%（平年0.3%）、発病果梗率は0.0%（平年0.2%）と平年並みである。

② 4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) アブラムシ類（ワタアブラムシなど）

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生圃場率が50.0%（平年18.7%）、寄生株率は6.7%（平年3.4%）とやや多い。

② 4月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ハダニ類（ナミハダニなど）

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生圃場率が66.7%（平年41.7%）、寄生株率は10.8%（平年13.6%）とほぼ平年並みである。

② 4月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

【参考となる事項】

1) 用語の基準と使用法

(1) 平年値

病害虫の発生時期、発生量は過去10年の平均とします。

(2) 平年値との比較

発生時期：平年値からの差を5段階で評価します。

早い	やや早い	平年並	やや遅い	遅い
6日以上早い	3～5日早い	平年値を中心として 前後2日以内	3～5日遅い	6日以上遅い

発生量：発生密度や発生面積の平年値からの差を5段階で評価します。

少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
外側10%の入る幅	外側20%の入る幅	平年値を中心として 40%の度数の入る幅	外側20%の入る幅	外側10%の入る幅

2) 病害虫防除所ホームページには、予察情報のほか、技術情報や各種のグラフ、写真を掲載しています。

防除所のアドレスは <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>
(農業技術センターのアドレスは <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/>)

3) 最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所
(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)
〒693-0035 出雲市芦渡町2440
TEL 0853-22-6772
FAX 0853-24-3342
e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp